



花で彩る三陸の道

三陸沿岸の国道45号を花で飾ろうと6月25日、ふれあい交流センター駐車場で、住民が協力してプランターに花に植え、道路沿いに飾りました。

午前9時、国土交通省三陸国道事務所久慈維持出

張所、久慈地方振興局、村役場の各職員や国道45号沿いの中央区、上区の住民など約40人が参加。200個のプランターにマリーゴールドとペゴニアの苗800本を植えました。(写真)それぞれのお宅の道路脇に飾られた色とりどりの花々は、9月まで道行く人たちの目を楽しませます。



夏のウニ漁、解禁

今季2回目のウニ漁が6月29日解禁(口開け)になり、午前6時とともに漁師さんたちが箱眼鏡をのぞきながらさおを操り、海中のウニを次々と引き上げていました。

漁を終えた午前8時過ぎ、沢漁港内の作業場では、太田哲雄さん(60歳)と奥さんの美和さん(61歳)が手際よく殻むき作業に精を出していました。(写真)二人は離れて暮らしている娘さんたちに取れたてのおいしいウニを送ろうと、身を崩さないように一粒一粒丁寧に選別していました。

真剣に施設を見学

普代小学校(村上悦夫校長、児童101人)、堀内小学校(田村えい子校長、児童51人)、鳥茂渡小学校(荒谷栄子校長、児童10人)の3校の3年生26人が、村を理解しようと村内のいろいろな施設を回り、社会科見学を行いました。

役場を訪れた一行は、各課室を回って、仕事の内容などの説明を聞いていました。(写真)児童たちは「どうして役場ができたのですか」「どんなことを考えながら仕事をしていますか」などと、子どもらしい質問をしていました。児童たちは1日かけて総合運動公園や鶴鳥神社、普代ダムなどを見学しました。

